

みうらトーク&トーク 平成 24 年度第 6 回

日 時 平成 25 年 2 月 7 日(木)
20 時 00 分～20 時 30 分
参加者 公益社団法人三浦青年会議所
24 名
テーマ 三浦市政全般について



<意見交換・概要>

市民 中学校については三崎中学校と上原中学校が統合してひとつになるということですが、小学校についての今後の存続、小学校はこれからどうなるのかということと、財政面でこれまで削減してきたことの中から得た体験、経験、言われたこと、また今やられている事業とは別に、三浦市としてもうちちょっとやってもいい事業をお伺いしたいと思います。

市長 中学校ですが、三崎中学校と上原中学校が統合されて、新しい三崎中学校に変わります。平成 26 年の 4 月からのスタートですので、今準備を行っています。新しい三崎中学校の場所は今の上原中学校の場所で、公募した結果、三崎中学校という名称になったということをご存知だと思います。中学校の場合は、複数の学級がないと、子ども達も成長していますので、子ども達間の交流、いじめの問題ですとか、ナーバスな問題も深刻になります。そういった意味で生徒の一定数の確保が必要であるということ、クラブ活動も人数が少ないと制限されてしまいますので、今の三崎中学校が学年で単学級になることを契機に、三崎中学校と上原中学校を統合し、複数学級で学校生活が送れるような環境を作らなければいけないということで、計画をさせていただきました。平成 26 年の 4 月からのスタートに向けて今準備をしています。体育館の建て替え等についても着手していきますので、平成 26 年に入る新入生が卒業するまでには完成ができるようなスケジュールを組んでいます。実際にはもうちょっと早めにできないかと模索しましたが、財源的に厳しい状況がありまして、平成 26 年に入学する 1 年生が 3 年生の時には完成するよう準備をしています。今の上原中学校の体育館が老朽化しているということで、現在、駐車場になっているところに新しい体育館を建てて、古い体育館を解体していくことになっています。

小学校についてですが、地域との連携ですとか、子ども達の通学の問題です

とか、非常に大きい課題があります。地方では全校児童で20人とか30人しかいないということがあろうかと思いますが、学区との関係や学校の歴史などを考えますと、簡単に効率性を求めた統合というのは絶対にできません。いま三浦市でいちばん小さな学校は剣崎小学校、南下浦小学校、旭小学校は100人ちょっとですね。そういったところがこれから、例えば50人を割ってしまうといったことになると、地域の皆さんにご相談してから踏み込んでいこうという時期が来ようかと思います。しかし、今の段階で小学校の統合の案は一切ないというのが現状です。小学校の統合はなかなか踏み込むには地域の歴史ですとか地域とのかかわりなど、こういった面を考えますと簡単にはできないということでもあります。

市民 施設を閉めたりですとか、そういった事業をやられている中での決断で、まわりからの声など、そういうことに対してどのように対応されたのかお伺いしたいと思います。

市長 業務の効率化ですとか、施設の統合ですとか、廃止、こういった選択をなぜしなければいけないのかということをご説明しなければいけないということがまず第一です。当然、地域のご意見というのはありますので、施設を閉めた場合は代替施設をご利用していただく案をお示ししなければいけません。様々な反応はありますので、その反応に対して真摯にお答えをして丁寧に説明をしてご理解をいただくことが大事だと思います。学校給食を民間に委託する際、批判のご意見をいただきましたけれども、その結果、子供たちがきちんと給食を食べて民間の力をお借りして、もっと喜んでくれるような給食の体制にできないか、アレルギーの子供たちに対する問題ですとか、民間企業が給食を作ることによって問題点が後退したりすることがないように検証して取り組みました。当初はいろいろご意見をいただきましたが、今は順調に進んでいます。

もう一步踏み込まなければいけないこととして、市役所の人員を減らさなければいけないという、人件費の面で非常に大きな負担になっているということがあります。市役所の職員の仕事がどんどん増えてしまう一方で、職員をなかなか減らせないというのは、市民のニーズに対応していくためには当然そのようになってしまいます。しかし、それにも限界がありますので、市が本来やらなければならない業務か、委託ができる業務か、もう一度検証して、例えば窓口での業務などはサービスのいい会社に委託できないか、丁寧に対応するためには民間のノウハウをお借りしたほうがいいのか、そんなようなことも次のステップで取り組もうと思っています。

ゼロベースでの事業の見直しを毎年おこなっていますが、なかなかそれも進

まない状況です。人を減らすということは、仕事も減らさないとまわっていきませんので、職員の人件費の問題もありますが、トータルで考えながら、踏み込んだ形で取り組んでいくということを考えています。

市民 三浦市のホームページには「あったかいまち」、「ロハス」ということがありましたが、ＪＣも「誇れるまち三浦」ということを掲げているところです。そういったところで、市長が三浦市民と共有したい価値観というものを伺いできればと思います。

市長 三浦市は、シティセールス事業に取り組んでいますが、知名度を上げようということで、関連の業界の皆さんにもお力をいただいて様々なことを行っています。それによりまして、来遊客も徐々に増えていて、テレビなどでもご紹介いただくなど実現できていますが、市民の皆さんが、自分たちのまちを知っているかという大きな課題があります。それを克服するというか、市民のみなさんにもう一度、市内の様々なことを見直してもらいたいということから、いま、みうら自慢という事業を立ち上げています。三浦のどこが自慢ですかということをも市民の皆さんからたくさんご意見をいただいて、みなさんが持っている情報を共有化していこうという事業を今年から始めました。市民のみなさんが三浦を本当に良いと思っているのか、ということの確認と、三浦の良さを一緒に共有してもらいたい。三浦というと自然が豊かであったかくていい町だよというのを、魚、野菜もおいしいし、と言ってくれています。不便という話は別として、それを市民のみなさんが言ってくれているのを確認したいという意味合いもあって、この事業をはじめました。

市民 吉田市長の考えるみうら自慢は何でしょうか。

市長 対外的には「ロハスなまち」。対市民では、「あったかいまち」。ということでアピールしています。豊かな自然とあたたかい人情ということで、三浦に一番ぴったりの言葉であると思います。

市民 三浦市の経済状態が逼迫していることは周知の事実ではありますが、三浦市長という事でもなかなか難しいと思いますが、以前、東国原前宮崎県知事が、知事を辞められたとき、宮崎県の財政の中で、本当の意味で知事が自由に使えるお金というのは、２割か３割しかないということをおっしゃっていました。もし、三浦市に市長が自由に使える財源が１０億円あれば、どのような事業をするかをお願いします。

市長 借金の返済に使います。

市民 企業が借金が多くなってしまったときに、症状としていろいろなものが出てきますが、社員のモラルの低下、やる気の低下、事故の発生などがありますが、これらの原因は、ひとつやふたつに絞られてくると思います。症状ひとつひとつに対症療法で対応するのではなくて、この原因に対して一発外科手術をやっ

ていくというのが最も効率的ですし、根本的な解決になると思います。
三浦市にそれを置き換えた場合に、市長が 8 年間やってこられた中で、市のもっとも根本的な、本質的な変えなければいけない課題というのは何かということをお教えいただきたいと思います。

市長 いま一番やらなければいけないことは、身の丈に合った政治であると思います。財政的な面でもそうですし、市民サービス面でも、他市に劣後してはいけないと思いますので、突出したサービスは必要ないと思いますし、他市並みのサービスを維持していくためには、身の丈に合った形にしていかなければいけないと思います。

市民 市民に対するサービスを充実させるというのが一番根本的な、例えば東京からの交通手段をもう少し充実させることが、交通の便が根本的な問題だと考えることもできますし、子どもの数が少ないということで、子どもに対する手厚いサービスを充実させる、そこが根本的な原因だということもあると思いますが、市民に対する身の丈に合ったサービスをするというのが、本当に三浦市を今後 10 年間、20 年間かけてよくしてくための根本的な原因なのでしょうか。

市長 身の丈に合ったサービスをしなければいけないということではなく、身の丈に合ったサービスを維持するための政治、財政規模に合った体系にしていかなければならないということです。身の丈に合ったサービスというのは、福祉などの市民サービスが横須賀市と三浦市で違ってはいけないと思います。三浦市に住めば保育料が安いなど、そういったことがあってはいけないと思います。同じ水準でいいと思っています。突出する必要はないし、極端に劣後しても問題があります。三浦市の場合には、大きな港があって、人口は 5 万人規模ですが、公立病院を持っていること、市場を持っていること、農業関係にしても、農協の組織率の高さ、農業政策に対してはお金も必要ですし、人も必要ですし、そういったことを 5 万人規模の財政規模では大変厳しいものとなっています。

市民 コンパクトにしていかなければいけないということでしょうか。

市長 そうですね。小さな市役所にしていかなければいけないということです。これが問題を解決していくうえで大きなテーマだと思います。

市民 財政規模を縮めてくことが一番の根本的な解決策ということでしょうか。

市長 財政規模を縮めるという手もあるかと思いますが、行政として、抱えている業務を徐々に減らしていくことなどに取り組んで、効率化をしていく方法です。ただし、市民サービスの面では、公平なサービスが必要ですので、それが劣後したりすることのないようにするために、行政改革を進めています。なぜ行政改革をするのかといいますと、他市に負けない市民サービスの提供をするためです。市の職員の給与を安定的に確保することという事ではなく、市民サービスが安定的に受けられる環境を作るために税金で賄えるような体制を作ることが大事だと思います。

市民 様々な問題がたくさんある中で、何が根本的な問題なのかを突き詰めていくと、いくつかの原因にいきつくのではないかと考えていまして、三浦市では何が原因なのかということを考えているところであります。

市長 行政の機能、サービスというのは、一元に民間とイコールではない部分というのがあると思います。ですから、根本的なところを突き詰めていくというのであれば、例えば、業績の良い大きな企業城下町になっているところでは、企業の業績がいい時期には潤沢になり、さまざまなサービスを提供できるようになりますが、業績悪化に伴って一気に悪化し、厳しい状況になるといったところもあります。税の根幹になる安定的な地価を上げること、人口を増やすことといったことが根本的なところになるのだと思います。

市民 道路などの交通事情についてですが、三浦市が転出者に行った転出理由のアンケートの結果では、その第 1 位が、交通状況が悪いということでした。確かに借金を返していかなければいけないという状況はありますが、例えば、京浜急行に対する提言の中で、少しでも市で負担して、鉄道の停車駅見直し等により横浜・都心方面との所要時間の短縮を求めるなどの働きかけをすることにより、観光にも通勤にも少しでも便利になるようにすることが、ひとつの根本的な問題の解決につながるのではと考えられます。転出理由の第 1 位が、交通状況が悪いということですので、道路、鉄道をどのようにしていくか、これがひとつ根本的な問題であるのではないかと思います。

市長 交通網の整備については、着実に取り組んでいることです。平成 27 年三浦縦貫道路が高円坊まで延伸され、交差点改良も行われ、西海岸線道路も事業検討路線に加えられました。小網代湾に橋を架けるということになり、まだ長い期間を要します。

また、鉄道では、快特が堀ノ内から三崎口までは、各駅に停車する扱いであり、バスについても、三崎口駅方面から三崎港まで来ることなく三崎東岡止まりの便が多く、これが大きな課題となっています。城ヶ島がこれから観光の核作りということで進めていきますが、現在の城ヶ島行のバスのルートは三崎港を経由していて、城ヶ島入口から市立病院の前を経由する距離の短いルートを通っていませんのでそのルートでの運行ですとか、鉄道ですと、現在下りのみの運転となっている京急ウイング号を、上りでも運転できないだろうかなど、京浜急行電鉄との若手の担当者レベルで打合せがありますので、引き続き、取り組んでいきます。

市民 福祉と教育というのが別の窓口になっています。福祉と教育は、一体になっていないと困ることが多く、福祉と教育との双方の窓口で取扱いが一致しないこともあります。市長のお考えを伺いたいと思います。

市長 子ども関連の担当は今後一本化していきます。三浦市は今年の 4 月から子ども課を新設し、それまでの子育て支援課と、教育委員会の機能の一部を統合し、子どもに対する窓口を一本化し、手続のワンストップ化を目指し対応していきます。市民のみなさんのニーズにいかに対応するかが職員の資質だと思っていますので、サービスを徹底させることが重要ですので、新設される子ども課にそういった機能を持たせることによって、保護者の方が子ども課の窓口に相談すれば、全て対応できる仕組みを実現したいと思います。

※ 公表については了承を得ております。